

令和6年10月30日

令和6年度病害虫発生予察注意報（第8号）

和歌山県農作物病害虫防除所

1. 病害虫名：ウラナミシジミ
2. 対象作物：サヤエンドウ、実エンドウ
3. 対象地域：日高地域
4. 発生量：多
5. 発生時期：9～11月
6. 注意報発表の根拠
  - 1) 10月下旬の日高地域（御坊市、印南町）のエンドウ類での被害発生ほ場率は77%（平成68%）とやや高い。被害株率は40.8%（平成23.6%）、被害さや率は18.8%（平成7.0%）と高く、多発した平成28年（被害株率45.0%、被害さや率15.2%）と同程度である。
  - 2) 大阪管区気象台の発表によると、近畿地方の向こう1か月（10月26日～11月25日）の平均気温は高い確率が80%である。このことから例年に比べて被害が長期化するおそれがある。
7. 防除上の注意事項
  - 1) 食入加害されたさやは、ほ場の外に持ち出し適切に処分する。
  - 2) 主な産卵部位である花や蕾に薬液が十分かかるよう、7～10日間隔で防除を行う。
  - 3) トレボン乳剤、アディオン乳剤、パダンSG水溶剤は、1齢幼虫のさやへの食入阻止効果が高い。
  - 4) 防除資料として、農業試験場ニュース125号を参照する。  
([https://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/070100/070109/gaiyou/001/nougyoushikenjyou/noushinews/noushinews125\\_d/fil/noushinews\\_125\\_mushi.pdf](https://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/070100/070109/gaiyou/001/nougyoushikenjyou/noushinews/noushinews125_d/fil/noushinews_125_mushi.pdf))
  - 5) 防除薬剤は最新の登録情報（農林水産省 農薬登録情報提供システム <https://pesticide.maff.go.jp/>）を参照し、適正に使用する。



写真1 花や蕾に産卵する  
ウラナミシジミ成虫

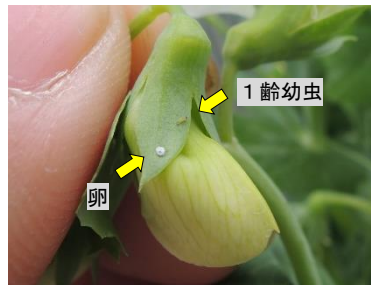


写真2 蕾に産卵された卵と  
1 齢幼虫（すぐにさやに食入）



写真3 さや内の豆を食  
害する幼虫

和歌山県農作物病害虫防除所  
電話：0736(64)2300